

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」

「コンフリクトの人文」セミナー 第13回

<報告1>

<報告2>

Visual にまつわる人類学のコンフリクトの、
人類学的考察

「迷惑な文化施設」としての公営ギャンブル場

大阪大学大学院人間科学研究科 GCOE 特任研究員

大阪大学大学院人間科学研究科 GCOE 特任助教

田沼幸子

古川岳志

<要旨>

<要旨>

映画の誕生とときをほぼ同じくして、近代的フィールドワークを基礎とした人類学が誕生し、人類学のアカデミズムへの制度化と同時に、映像人類学というサブディシプリンが生まれた。しかし、人類学の中心において、visual なるものは、諸刃の刃として、二次的な扱いに甘んじてきたともいえる。その理由をときほぐしてからこそ、「言葉では表せないもの」を表すという使い古された表現を越える映像の力が、人類学、ひいては人文学の中心に据えられることとなるだろう。

日本の公営ギャンブル（競馬・競輪・競艇・オートレース）は、その誕生以来、様々なコンフリクトを引き起こす、いわば「迷惑」な存在として語られ続けてきた歴史を持つ。戦後の混乱期には、暴動騒ぎが頻発する危険な場所としてメディアや国会の議論で取り上げられた。高度経済成長期を迎えると、いわゆる革新首長の誕生とも関連して、行政のゆがみの象徴として語られた。近年は、売上げの低下が続き、自治体のお荷物施設として話題に上ることが多くなった。また、営業戦略としての「場外売場」建設計画に対しては、多くの場合、周辺住民から大きな反対の声が立ち上がる。本報告では、そのような「迷惑」な存在をめぐる言説の変遷を、戦後日本の社会変容を示す一事例として考察する。

日時：2008年6月13日（金） 17:00 から 19:00

会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）

ユメヌマホール（参加無料）

東館は、万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは <http://www.hus.osaka-u.ac.jp> をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: globalra@hus.osaka-u.ac.jp

電話 06-6879-8085

06-6877-5111

【報告者略歴は裏面をご参照ください】



【報告者略歴】

田沼幸子

ICU, UCSD, 大阪大学で人類学を学ぶ。1999-2004年、のべ26ヶ月間、キューバでフィールドワークを行う。その結果を『ポスト・ユートピアのキューバ：非常な日常の民族誌』（博士論文、2007年）や'Post-Utopian Irony: Cuban Narratives during the "Special Period" Decade' (PoLAR 30(1), 2007)などにまとめた。また、2008年2月には、石塚道子・富山一郎氏と共編した『ポスト・ユートピアの人類学』（人文書院）が出版されたばかりである。

本 GCOE プログラムでは、「映像作成による人文学のコンフリクトの国際研究教育拠点」と「民族誌 co-labo 100」というプロジェクトを主催し、若手研究者とともに、コンフリクトの新たな表現のあり方を模索している。2007年度より、キューバ滞在中に知り合ったものの、国外に「移民」したインフォーマントたちの追跡・撮影調査をしている。2009年度には映画にする予定である。

古川岳志

2002年、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了、博士（人間科学）。専門は、文化社会学、大衆文化論。2008年2月より現職。関西大学、神戸国際大学ほか非常勤講師。主要業績は、「競輪の変容過程～競輪から見たギャンブルとスポーツの関係」（『スポーツ社会学研究』1998）、「大衆文化としての力道山プロレス」（岡村正史・井上章一編『力道山と日本人』青弓社 2002 所収）など。

本 GCOE のリサーチ・フォーカス「横断するポピュラーカルチャー」（<http://www.let.osaka-u.ac.jp/crossing-popularculture/>）において、コーディネーターをつとめる。